

扇状地性の堆積物は、断層運動に伴い隆起した木曾山脈、赤石山脈及び伊那山脈から供給される多量の碎屑物が堆積することで生じたものである。成因論から見れば扇状地堆積物と定義されるが、これらの堆積物は、伊那谷の形成を特徴づける断層運動により段丘化し、加えて天竜川の下刻作用により段丘化がさらに進み現在に至っている（図-2.1.5参照）。よって、地形発達過程から見れば扇状地ではなく段丘として認識されるものである。以上より、本報告では扇状地性の堆積物を段丘堆積物として取り扱う。なお、豊丘村に特徴的な段丘堆積物はこれら扇状地性の堆積物として堆積したものである。

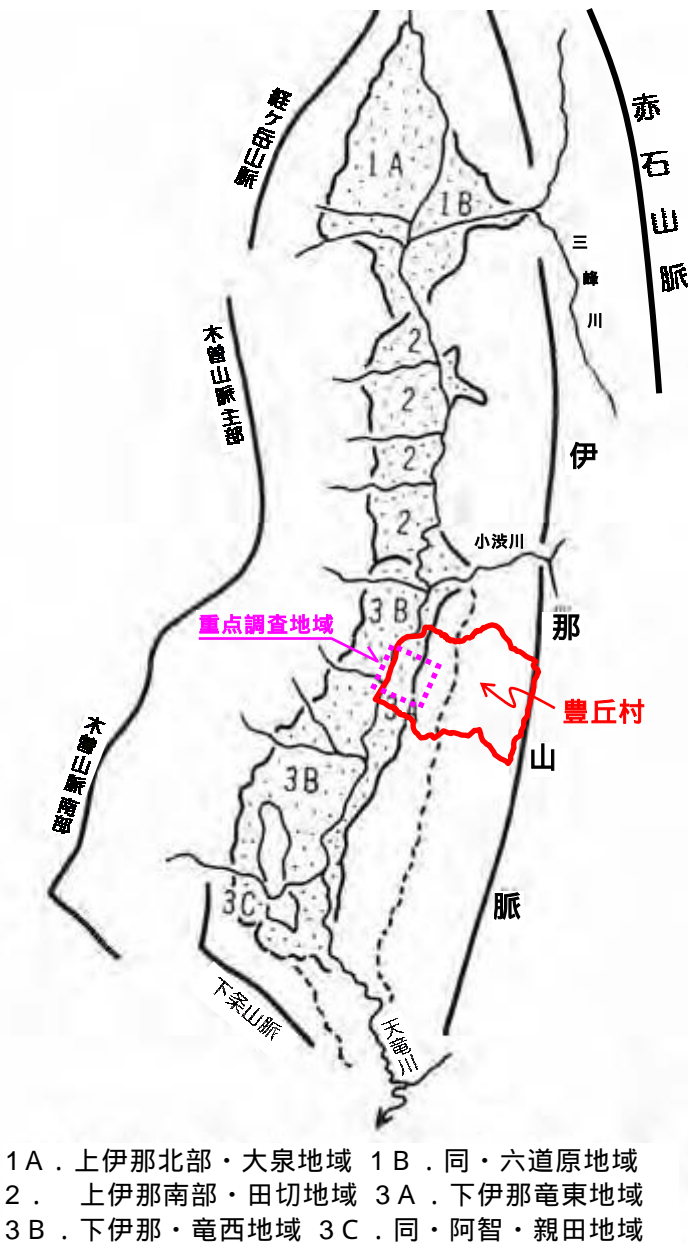


図-2.1.4 伊那谷の扇状地性堆積物の分布  
 旧建設省天竜川上流工事事務所(1984)、  
 天竜川上流地質解説書を引用・加筆

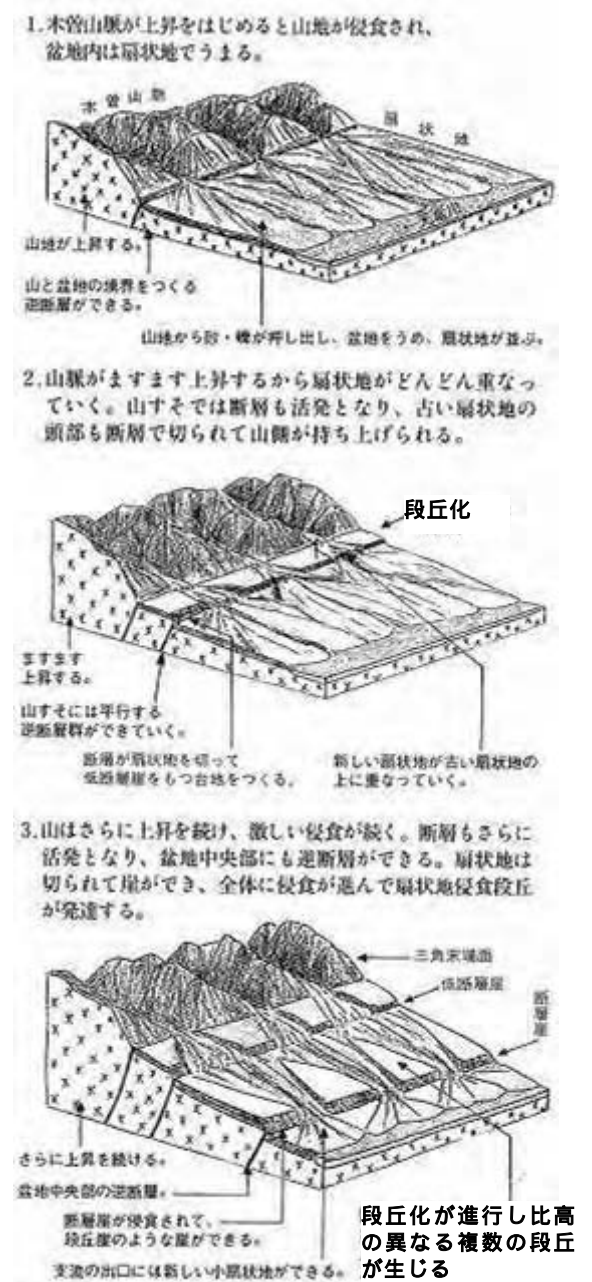


図-2.1.5 伊那谷の地形発達過程  
 松島(1995)、伊那谷の造地形史を引用・加筆